



一般社団法人

21世紀の新しい企業を創造する経営者集団

会報 令和6年
—2024年—

日本道経会

10 No. 299
月号

本会の目的

本会は、「道徳経済一体」の理念に基づき、産業人教育の推進ならびに繁栄と永続の企業の創造につとめ、経済倫理の確立および経済界の安定的発展に寄与し、地球市民の一員として社会に貢献することを目的としています。

日本道経会会員社数/互敬塾塾生
723社 / 448名

(令和6年10月1日現在)

巻頭言

日本道経会理事を拝命して

(一社) 日本道経会 理事
三重支部 代表幹事
(有) 伊藤鋳金工作所 代表取締役

伊藤 豪人



三重県四日市市で建築板金を営んでおります、有限会社 伊藤鋳金工作所の伊藤豪人と申します。此の度、三重支部前代表幹事 鈴木規子氏の後任として、令和6年4月より三重支部代表幹事そして5月の全国総会で日本道経会理事を拝命いたしました。

日本道経会に入会してからは、三重支部歴代3名の代表幹事の元、支部事務局長として裏方で会員皆様のお世話をさせていただいてまいりました。そのような私が、後任の代表幹事の大役をいただき身の引き締まる思いです。今後は歴代代表幹事様を初め諸先輩方並びに、木本事務局長の協力をいただきながら支部運営に努めてまいります。

支部活動といたしまして、事務局長の頃より支部目標に会員増強を掲げ活動をしてまいりました。おかげさまで、若い会員も増えて先輩会員とのバランスも良く活発な支部活動ができつつあります。具体的には今年度は初めて中日本生涯学習センターを会場に「道経一体経営講座 開講記念特別講座」が開講されました。三重支部といたしましても会員の参加を募り講座受講を致しました。また、会員間の

親睦を深める目的で、支部企業研修旅行の計画も進んでおります。日本道経会・互敬塾ともに、さらなる会員増強を目標により多くの仲間と共に学べる魅力ある集団に成長していきたいと思っております。

また令和6年の全国通常総会が名古屋市で開催されることとなり、支部といたしましても微力ながらお手伝いをさせていただき、全国からお越しの皆様を「おもてなしの心」でお迎えいたしたいと思っております。

さて、弊社は今年で創業97年になります。父の代までゼネコン・工務店などの下請けとして建築板金を営んでまいりました。私が事業を継いでから、下請けからの脱却を試み、今では8割を元請けとして商いができるまでになりました。

現在の取り組みとして、昨今の気候温暖化による酷暑の対策として、「ECO 遮熱工法®」を展開し既存室内の WBGT（暑さ指数）を安全値まで下げる施工工事をしております。また、特殊液を用いて建物の雨漏り原因を見つける「雨漏り調査」も行っています。

これらの事業は企業や行政など様々なところに採用していただいております。まだまだ不十分ではありますが、皆様の役にたてる企業を目指してまいります。

最後になりますが、学祖の教え「道徳経済一体思想」をしっかり学び、今後の日本道経会・支部活動に微力ながらお手伝いさせていただきます。今後ともご指導よろしくお願ひいたします。

一般社団法人
日本道経会
スローガン

理念 未来を拓く 企業の姿は 三方よし
活動 企業の繁栄は人づくり経営にあり



令和6年8月24日（土）の14:00から17:15まで、千葉県柏市の公益財団法人モラロジー道德教育財団のキャンパスプラザC会場において、本年度の千葉支部活動テーマ「三世代交流 ～永続を目指して～」を主題として道経一体経営セミナーを開催し、27名が参加しました。

第1講では、モラロジー道德教育財団・企業センター長の藤井大拙氏にご登壇いただき、テキスト『徳づくりの経営』の第4章第7項「事業承継は徳の継承」をテーマにご講話いただきました。企業は「社会の公器」であり、経営者の究極の任務は「後継

者を育て事業を継承していくこと」である。また徳を積み、徳を継承することが重要で、その精神より資産や人を優先して継承する事業承継は失敗しやすい、とテキストの内容に触れたのち、数々の企業や経営者の事例を披歴されつつ、道経一体の理論に基づいたお話をいただきました。

第2講は、大阪で「シーズニング」と呼ばれる粉末調味料の製造販売を行っている株式会社丸福 代表取締役社長の福田靖久氏にご登壇いただき、新卒で父・重造氏が創業した自社に入社した直後から社員の前で社長である重造氏に「こんなやり方では、続かへんで」と指摘して、親子喧嘩が絶えなかったというエピソードや、工場で先代と従業員が生死の境をさまよった事故が起こったことで、それまでの自分の姿勢を反省した事例などを交えつつ、他人の幸せを祈ることや三方よし経営の重要性などを先代の後ろ姿から学んだというお話をいただきました。また、後継者については次女の夫に入社してもらい、互敬塾に所属して道経一体を学んでもらっている最中、というお話をいただきました。

両講師によるパネルディスカッションの時間では質問に答える形で、株式会社丸福様のビジネスモデルや福田講師の親子関係など、1講、2講の内容を深掘りする時間となりました。セミナー終了後は会場をレストランに移して講師を囲んで懇親会を行い、参加者による感想発表など和やかな雰囲気の中、楽しい時間を過ごした後に散会となりました。

千葉支部セミナー委員会 佐野 和隆



2024年9月13日（金）18時より、ホテル・ザ・ノット・ヨコハマにて神奈川支部9月例会（経済講演

会）が開催されました。神奈川支部、互敬塾、また、他支部からのご参加も頂き、総勢37名の参加で開会しました。

経済講演会の講師は麗澤大学 経営学部 学部長である近藤明人教授をお招きして、テーマは【ファミリービジネスの永続を目指して】—中小企業の強みと可能性—と題して、ファミリービジネスの特徴、強み、衰退のメカニズム、成長、戦略を90分に渡りご講演頂き最後には企業の繁栄と永続を目指すとの内容で締めくくりをして頂きました。

道経一体思想を学ぶにあたり、多くのモラロジー

企業はファミリービジネス（同族経営）が多く非常に興味深いテーマでありながら、日本での研究が遅れているとの背景があるとのことでした。

講演の冒頭で近藤学部長から、ファミリービジネス論で重要なことは、伝統（受け継がれた価値観、文化、慣習の継承）、革新（既存の製品やプロセスの改良）、変革（経営構造の根本的な転換）の違いをよく理解し、時流に合わせバランスよくマネジメントすることと、ファミリービジネスの特徴（強みと弱み）では強みとして、意思決定の速さや時代の変化に柔軟に対応できること、また社員や地域との結びつきが強い面がある一方、弱みはレガシー（過

去の業績）に依存しすぎるがゆえに引き起こしやすい経営の硬直化があるため、衰退を防止するための手段として、ファミリーガバナンス（統治・統制）を構築すること、品性（資本）を高めることが必要であることを学びました。

道経一体思想を学ぶにあたり、近藤教授のファミリービジネス論のご講演で、参加企業の皆様も日常の経済活動の諸問題について、頭の整理が出来て、明日への希望が湧いてきたとの声を多数頂きました。

今回の経済講演会では、良き機会を頂きましたこと改めて感謝申し上げます。

組織増強部会 部会長 荒木 洋児

京都支部 北部例会

【日時】 令和6年9月11日(水)

【場所】 午前：綾部市 日東精工株式会社 城山工場
午後：舞鶴市 松尾寺・金剛院・
五老スカイタワー

午前中は、日東精工株式会社城山工場にてあやべ道経塾顧問をお引受けいただいている日東精工株式会社の代表取締役社長兼COO荒賀誠氏の講演「経営理念『我らの信条』」を聴講しました。荒賀社長の自己紹介に始まり、会社概要・沿革・4つの事業・国内と海外のネットワーク・海外の事業展開の現状と、道経一体経営思想を具現化されている日東精工株式会社の経営理念について解説がありました。同社は、農村地域の綾部に地元有志が機械工業の振興を目的に設立され、その基本方針は、「誠実を基とし、内外に信用を獲得し、地方発展に寄与する」こと。社是である経営理念「我らの信条」を分かり易いことばで、日本道経会会員にも理解出来る様に説かれました。

我らの信条①我らはよい自己をつくる－健康を増進し、品性を養い、知識を求め、技術をみがいて、健全な人格をつくる／我らの信条②我らはよい仕事をする－誠実を旨とし、改善を怠らず、親和協力して、よい商品をつくり、明るい職場をつくる／我らの信条③我らはよい貢献をする－我らが日々の勤めにいそしむことの出来るのも、社会の恩恵による。感謝の心を仕事に活かして社会に貢献する。

これらの日東精工株式会社の判断基準である「我らの信条」の紹介の後は、同社のCSR活動・人材育成について多くの事例を挙げて説明をされました。

荒賀社長の一連のお話からは、謙虚さと感謝の気持ちを忘れずに会社経営されているか、また同社が「地域との絆」をいかに大切にされているかが、ひしひしと伝わってきました。経営理念の継承と事業の深化をもって企業価値の向上に邁進されているお姿は頼もしく映りました。お話の中でも、とりわけ「感謝ということは、よく見て、よく考えて、見落としがちなどころでも見落とさずに見ること。」日頃何気なく使っている「ありがとう」という言葉であるが、「『ありがとう』は相手に『そこまで自分のことを考えてくれるのか』という気持ちを起こさせてくれる。『ありがとう』という言葉は究極の合言葉であり、愛言葉。」には感銘しました。

講演後は、城山工場では見学者はめったに受け入れられないそうですが、荒賀社長のご厚意で、工場見学をしました。整理整頓が徹底されており、「我らの信条」が周知徹底されていると感じました。

午後は、舞鶴市へ出向きました。西国第二十九番札所・松尾寺、金剛院を参拝し、最後に五老スカイタワーから舞鶴湾を眺望いたしました。

京都北部部会長 藤田 正人





令和6年8月21日（水）に岐阜県モラロジー会館にて、夏季道経一体経営セミナーを（一社）日本道経会 専務理事の能勢 千晴氏をお招きして開催致しました。

参加者は、岐阜支部会員、岐阜県モラロジー経済同友会の会員、モラロジー維持員で45名の方が参加していただきました。

初めに、岐阜県モラロジー経済同友会の副会長の株式会社小島テントの小島基弘社長より経営実践発表をしていただきました。学校卒業後6年間修業を積み28歳で入社、2008年3代目社長に就任。リーマンショックで2年分の受注していた仕事がキャンセルになり白紙の状態になり経営危機を迎えたが、100年に1回のチャンスと捉え、会社の清掃に打ち込んだ。その時にモラロジーとの出会い、人生の師匠で株式会社マルエイの故澤田栄作様との出会いから、ご指導をいただき会社経営に生かされているとのことでした。その例として、①我以外、皆師なり（謙虚な心）②素直になることが大切 ③よいことがあったら社員のお蔭と思う ④苦しい時どうにもならない時は、墓参りをする、その時お墓の中から声がしてくる等、大変参考に体験談でありました。

能勢講師から「徳づくり経営」について、第1講目は日本道経会会員以外の方の参加もあり、最初に日本道経会の「道経一体経営」のPR動画を見て頂き、つづいて日本道経会の活動の目的、理念、活動方針

についてお話いただきました。会員以外の方も多く参加されましたので、非常に参考になったと思います。

第2講目は自身の親から6代目社長として、引き継いだ創業200年の老舗「多田屋」の事業が経営破綻して、営業譲渡しなければならなくなったことについて、身に迫る生々しい体験をお話して頂きました。

38歳で社長に就任し絶対に多田屋の“アンカー”にならないぞと闘志を燃やし。スクラップアンドビルを慣行し、急速な店舗拡大経営を押し進め新店舗の開設又、コスト削減にも取り組み順調に業績は向上していったが、5年目で地域最大級のショッピングセンターが出来、売上が一気に落ち込む。起死回生策として、ショッピングモール内に千葉県最大級の店を出店したが、売上見込みの60%程度しか上がらず、この投資が致命傷となり、平成17年に経営破綻することになった。

自分の力を過信し、自分の足元を直視する冷静さを失い他人から何を言われても耳に入らなかった。経営破綻後は、従業員の再雇用は100%確保する、多田屋の商号を世に残す、従業員退職金を満額出すための選択肢として、特別清算・営業譲渡の道を選びました。

この決断をされるについて、多くの方々のお蔭と、奥様はじめ家族の支え、元従業員の感謝のお手紙によって癒され元気づけられたこと、又モラロジーのご縁によって助けられて自宅競売を奇跡的に回避できたこと、多くの気づきと学びを得られたとのことでした。

「他人と過去は変えられない、自分と未来は変えられる」「起きてしまった事実は変えられないが、その事の考え方・受け止め方でその意味を与えることが出来る」

「この出来事がある今があり、この事は自分にとって良かった事」さえ今は思えるようになりました。と結ばれました。

事務局長 浅野 龍介

本会報のバックナンバーはホームページでご覧いただけます。

NIHON DOHKEIKAI <http://www.ndk.gr.jp>

一般社団法人

発行：**日本道経会**

〒277-0065 千葉県柏市光ヶ丘2-1-1
TEL. (04) 7173-3172 FAX. (04) 7173-3134
E-mail office@ndk.gr.jp

事務局 だより

岐阜県瑞浪市にある中日本生涯学習センターで、14年ぶりに道経一体経営講座が開催されました。予想よりも多くの方にご受講いただき充実した講座となりました。受講生のやる気と笑顔を見るたびに、私たちスタッフも元気を頂きました。 本部事務局